



小豆地域特別支援学校の完成イメージ図

■ 設計方針

1. 小豆地域における特別支援教育の現状と特別支援学校の必要性

小豆地域では、特別支援教育の学びの場として、小・中学校において、通常の学級に加え、特別支援学級、通級指導教室が設置されていますが、特別支援学校は設置されていません。特別支援学校での教育を希望する者は、特別支援学級に入級したり、島外の特別支援学校に通学したり、あるいは、親元から離れ、島外の特別支援学校の寄宿舎に入舎をして通学したりしています。

小豆地域に特別支援学校を設置することで、障害により教育上特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学びの場の選択肢が広がるとともに、小豆地域の特別支援教育の拠点として、多様な教育相談への対応や研修などを行うことで島内の特別支援教育の充実を図ることができます。

他校の児童生徒や地域の方々との日常的・継続的な交流及び共同学習などを通じて、障害の有無にかかわらず、多様性を認め合い、共に育つ子どもの育成や子どもの成長を促進する基盤的な環境整備を進めることで、共生社会の実現を推進する上での重要な役割を担うことができます。

2. 基本理念

①子ども一人一人が、自分らしくのびのびと学べる学校づくり

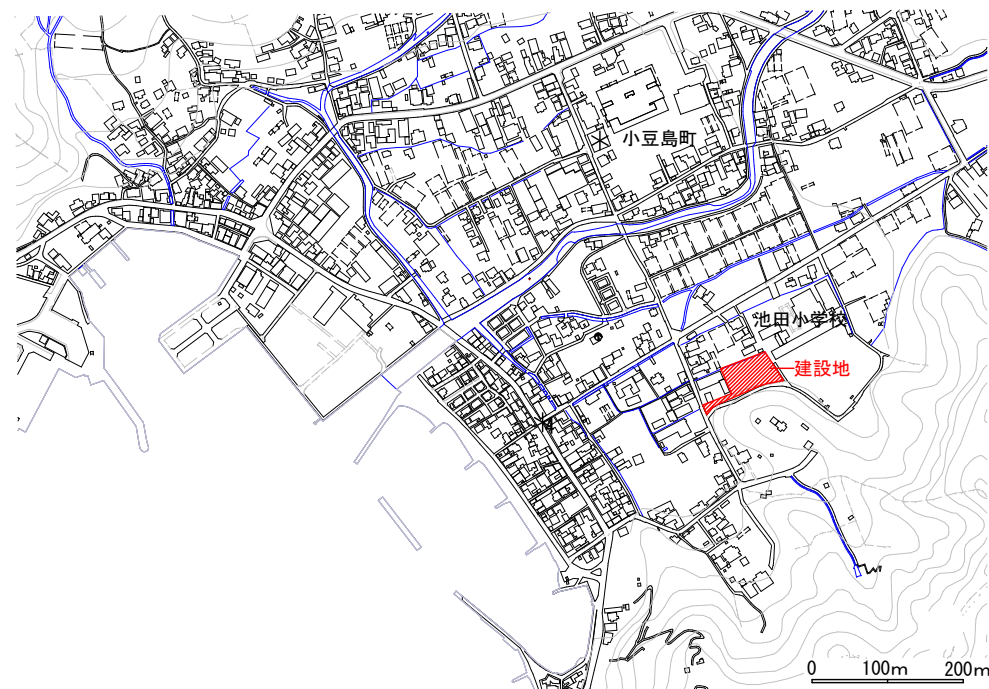
子どもが自分の良いところや可能性に気づき自ら学ぼうとする主体的な行動を促す学習や、小豆島の豊かな自然や環境を生かした活動ができる学習環境を整える。

②地域にしっかりと根ざし、地域とともに子どもを育てる学校づくり

子どもたちを地域全体でしっかりと育てようという小豆島の良さを生かし、地域社会の人たちとのふれあいや隣接する小学校等の日常的・継続的な交流及び共同学習を大切にし、社会性や豊かな人間性を育む。

③専門性を発揮し、小豆島の特別支援教育の拠点となる学校づくり

小豆島に初めて設置される特別支援学校として、障害のある子どもや保護者、学校等への支援にあたり、関係機関と連携しながら特別支援教育の推進を担う。



国土地理院 「基盤地図情報」より作成

3. 基本コンセプト

①みんなで成長する学習環境の整備（インクルーシブ教育システムの構築）

- ・異学年との交流：多目的室
- ・池田小学校との交流：共同学習、交流広場、連絡通路、施設の相互利用
- ・地域との交流：プレイルームの地域開放、農園での共同作業

②特別支援教育の拠点づくり

- ・特別支援教育を担う教員の育成・交流：音響機器を備えた研修室（多目的室）
- ・教育相談の体制づくり：進路相談室、自立活動室、生活訓練室の設置

③一人一人に応じた学習環境の整備

- ・誰でもが利用しやすい施設：ユニバーサルデザイン
- ・生徒数の変動に対応できる施設：フレキシビリティを持たせた教室
- ・専門的な教育を行うための特別教室：自立活動室（からだの動きの学習等）、生活訓練室（日常生活に必要な力を身につけるための学習等）

④安全・安心な学校づくり

- ・学部ゾーンの明確化
- ・職員室、事務室を正門側に配置
- ・バリアフリー

⑤記憶に残る原風景

- ・小豆島への愛着を育む：海からの潮風や祭りのにぎわい
- ・地域への愛着を育む：亀山八幡宮の社や大麻山の眺望
- ・学校への愛着を育む：仲間と共に過ごした記憶



町道亀山線



亀山八幡宮の鳥居



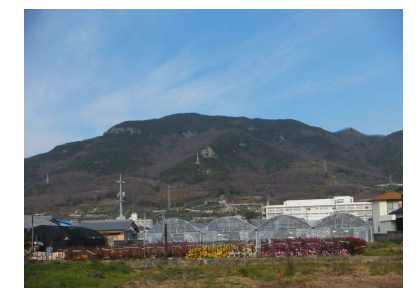
亀山八幡宮



池田の棧敷



亀山八幡宮の社



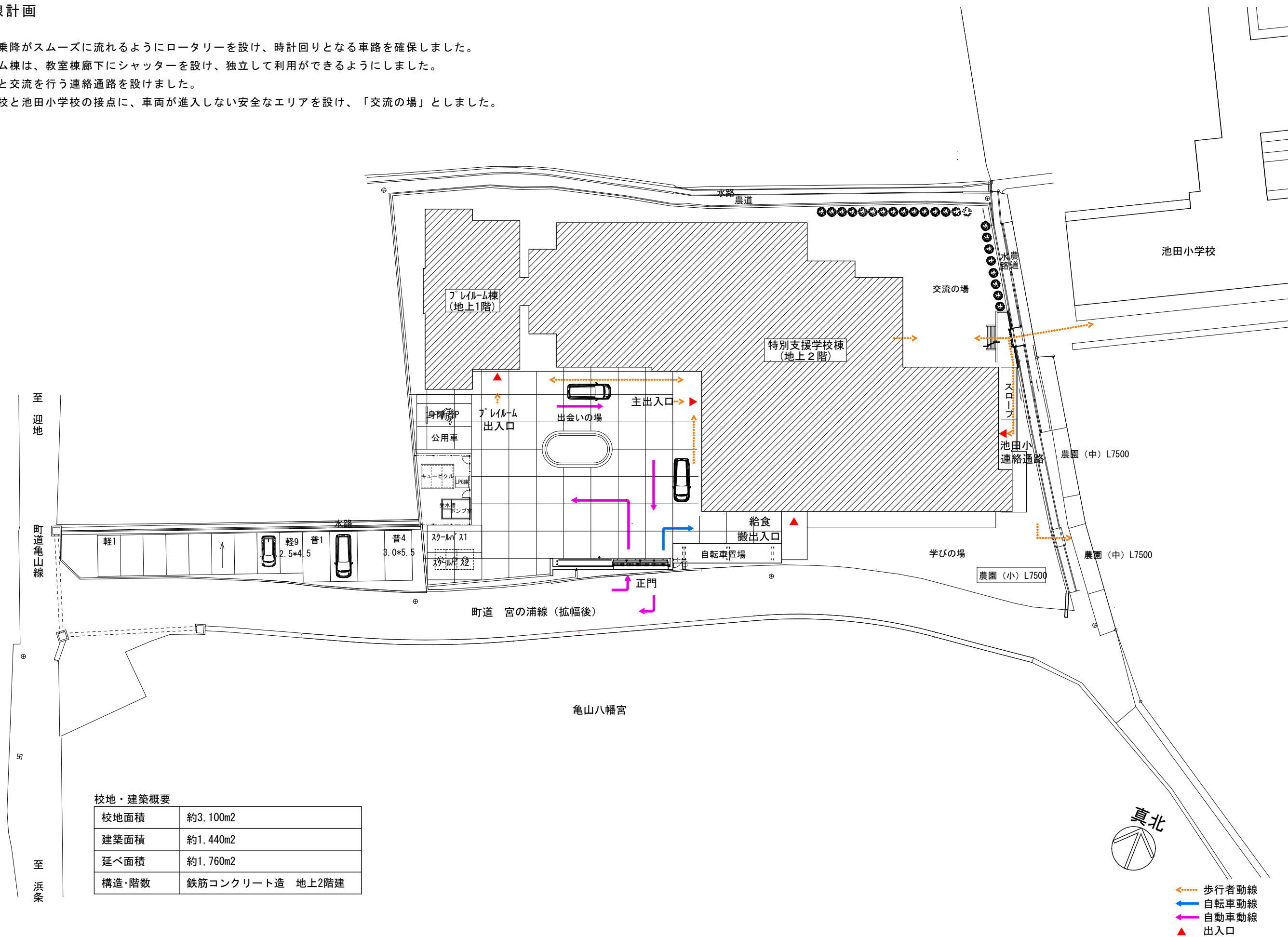
大麻山

⑥自然環境との共生

- ・光や風を取り入れる断面計画

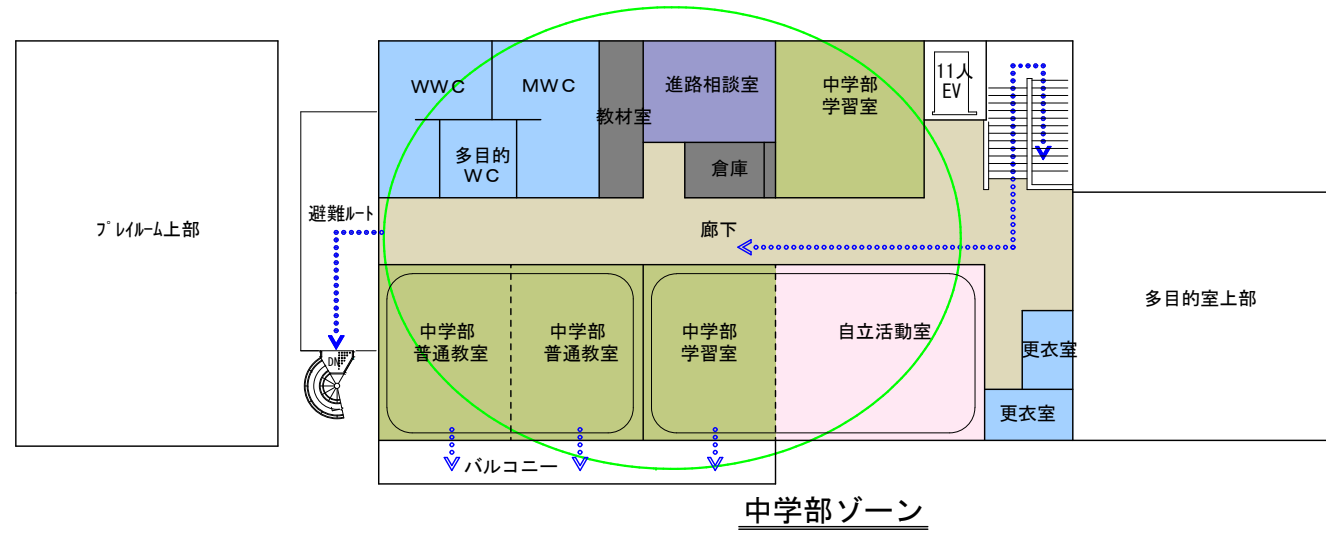
外部動線計画

- 送迎車で乗降がスムーズに流れるようにロータリーを設け、時計回りとなる車路を確保しました。
- プレイルーム棟は、教室棟廊下にシャッターを設け、独立して利用ができるようにしました。
- 池田小学校と交流を行う連絡通路を設けました。
- 特別支援学校と池田小学校の接点に、車両が進入しない安全なエリアを設け、「交流の場」としました。



■ ゾーニング計画

2階平面



管理ゾーン

事務室・職員室ともに、昇降口(主玄関)に面し、皆の顔が見える平面計画とすることで、親近感のある校舎を目指しました。また、そのことにより、防犯性についても高めています。事務室と校長室は隣接させ、直接往来可能な平面計画とすることで、効率的な業務が行えるよう配慮しました。職員室は、今後の児童生徒数の増加における教員数にも対応できるよう、余裕のある広さを確保するとともに、職員同士の情報共有も容易となるよう、1階にまとめて配置しました。保健室・医療ケア室はお互いを隣接させ、プレイルーム近傍かつロータリーに面した配置とすることで、管理及び救急搬送の容易さに配慮しました。

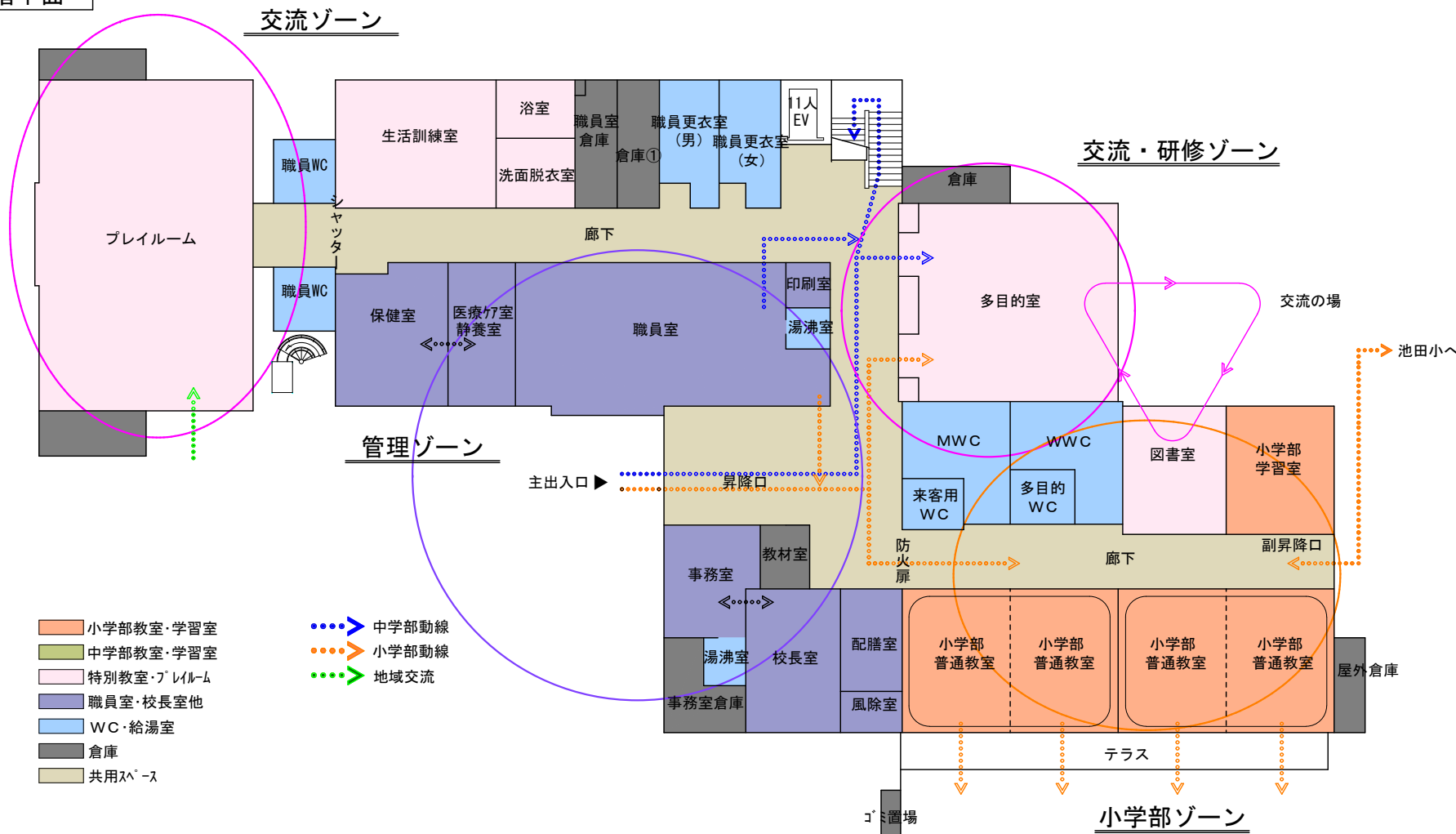
小学部ゾーン

就学当初からお互いに見近な存在と意識するように、池田小学校側に小学部を配置しました。テラスから直接、南面の広場へ接続できる形態とすることで、開放的な空間とし、のびのびとした生活・教育を行えるようにしました。また、中学部からは一定の距離を置きながらも、交流・研修ゾーンの近傍に配置することで、中学部との交流を適切に行えるように配慮しました。2室を1室として利用できるよう、可動間仕切り壁を設置し、将来的な児童数の変化に柔軟に対応できるよう配慮しました。

中学部ゾーン

2階の落ち着いた場所に配置することで、学習等に集中して行える環境となるようにしました。教室の南には亀山八幡宮の社が見えます。中学部も小学部同様に2室を1室として利用できるように配慮しました。自立活動室と学習室の壁は可動間仕切りで一室でも使用できるようにしました。教育相談や会議等で利用される進路相談室はプライバシーに配慮し、廊下を挟んで、学習室から離すとともに、廊下からも少し奥まった平面計画としています。トイレは小学部・中学部ともに、普通教室の近傍にまとめて配置し、使いやすくするとともに、配管距離数を極力抑えることで、漏水リスクの軽減やコストダウンに配慮しました。

1階平面



交流・研修ゾーン

インクルーシブ教育システムの実践と小豆地域の特別支援教育の専門性向上のためのゾーンと位置付けています。多目的室を全校、各部、池田小学校を招いての交流の場として校舎の中心に配置しました。食堂、音楽室としての利用を主としていますが、広場側は大開口とし、内外一体的な交流活動も可能です。また、自校や他校の教員の特別支援教育に関する研修で利用できるように配慮しました。図書室は交流施設として位置付け、図書室内での読書だけでなく、持出して交流を図るツールとしての利用も想定しています。池田小学校の児童にも利用しやすいよう配慮し、池田小学校近傍のエリア、かつ、多目的室等の交流ゾーン内での往来を可能とした平面計画にしました。池田小学校にない特殊図書(大型絵本等)を備え、将来的には、ICT等を利用した学習等にも活用できるスペースとしています。

交流ゾーン

プレイルームは共生社会形成のためのゾーンと位置付けています。体育や式典などの授業や学校行事だけでなく、地元住民等との交流の場として利用します。閉校時も校舎棟と分離して利用できる平面計画とすることで、管理のしやすさに配慮しました。利用形態によっては、職員WCを開放することも可能であり、加えて、生活訓練室の調理場を交流の場として拡張して利用できるよう配慮しています。地域の活動も含め、色々な行事で活用できるよう、空調設備を備えたプレイルームとしています。